（資料３－３）

中小河川における水難事故防止策
～平常時における看板を用いた情報提供～

（記載内容の考え方と具体例）

■記載すべき内容案（大人版、子ども版共通）

必須事項

① 急な増水の予兆を感じたら、すぐに川からの避難を促す内容。
② 増水の予兆をキャッチするための危険信号を知らせる内容。
③ 過去の増水事例や水難事故事例がある場合は、具体的に説明。

その他

④ 地域ごとに特筆すべき事項を掲載。
（リアルタイム河川情報や気象情報の入手先 URL、避難経路、雨宿り禁止など）
⑤ 河川利用者の興味を引くように、視覚に訴えるイラスト・写真を引用。

＜子ども版の留意点＞

●簡単な表現を用い、漢字にはふりがなをふる。
●子どもは携帯電話を持っていない場合が想定されるので、URL の掲載を省き、水害等に関する伝承や自然の危険信号等の地域特性について充実した内容とし、興味や注意を促すためにイラストや写真などを活用するなど表現を工夫しても良い。

＜その他の留意点＞

●看板イメージ（次頁）のように、タイトルやレイアウトなどについて、統一的な色・デザインを採用し、利用者に気づかれやすく、また一目で内容が伝わるようにする。
●わかりやすい看板となるよう、急な増水をイメージしたイラストやキャッチフレーズを入れるなどの工夫が必要。
●山間地、あるいは都市河川など現地の状況に合わせた内容とする。
●行動を促すのに効果的なサイン（標識）表示を検討する。
●急な増水の危険を知らせる予兆や、過去の事故の具体的な説明などを加え、各河川、各地域の民間伝承を可能な限り盛り込む。

統一的な色・デザインにする。
タイトル〇〇〇〇〇〇〇〇
①避難行動を促すタイトル
サブタイトル 〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇
説明文　〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
②危険信号の情報提供
川の危険信号（増水の予兆を確認する視点）
● 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
● 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
● 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
こんなときは すぐに川から離れましょう！ 天気予報のチェックも 忘れずに！
ここでは、〇〇〇〇年〇月に
急な増水による水難事故が発生しました。
③増水・事故事例
〇分間で水位が〇〇m上昇
⑤興味をひくイラスト等
河川情報や気象情報の入手先 or 非難経路情報の提供　など
● 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
http://
④地域毎の特筆事項
（追加事項）
● 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
http://
事務所名
⑥事務所・連絡先
電話番号　TEL　0123456789

図　看板イメージ

【その他のタイトル例】

・ここは川の中です。こんなときにはすぐ避難
・過去に急な増水による事故が発生。こんなときは急いで川から避難
・川は意外と気が短い　アッという間に増水します　こんなときにはすぐ避難

など

【その他の急な増水の予兆例】

・山鳴りが聞こえたとき
・腐った土、火薬のようなにおい
・黒い雲が低くたれこめたとき
・急に夕暮れのように暗くなったとき
・たたきつけるような雨が降りはじめたとき
・濁った水が流れてきたとき
・ダムのサイレンが鳴ったとき　　など

【その他の特筆事項例】

・逃げ道の方向に矢印
・急な増水のロゴ
・橋下での雨宿りの危険を示す絵
・過去に発生した事故の具体の一覧
・声かけの例“はやく川から上がれ“　など

【タイトルの留意点】

・利用者の目線に立ち、主に避難を促す内容とする

【大人用看板の例】

予兆を感じたらすぐ避難！

急な増水の危険あり！
橋の下での雨宿り禁止!!

この付近で雨が降っていなくても、上流で強い雨が降ったら、急激に増水する場合があります。危険信号はこちら↓↓

- **大雨注意報、警報が発表されたとき**
- **川の上流の空に雨雲や積乱雲が見えたとき**
- **落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき**
- **雷りが聞こえたとき**

ここでは、○○○○年○月に
急な増水による水難事故が発生しました。

○分間で水位が○○m上昇

■河川情報や気象情報はこまめにチェックしましょう。

- **気象庁「177」天気予報電話サービス**
  知りたい地方の市外局番に続けて「177」をダイヤル
- **（財）日本気象協会**
  http://www.jwa.or.jp/b/mobile/QRT.php
- **国土交通省河川局～川の防災情報～**
  http://i.river.go.jp/

事務所名
電話番号　TEL　0123456789

【イラストの工夫】

・イラストは山間地、あるいは都市河川など現地の状況に合わせる

【その他のタイトル例】

- ここは川の中、おやっと思ったらすぐ逃げよう
- 橋の下で雨宿りをして川に取り残された人がいます　こんなときは急いで逃げよう
- 雨が降ったらすぐに川から上がりましょう

など

【その他の急な増水の予兆例】

- 黒い雲が見えたとき
- 急に空が暗くなったとき
- 雨がふりはじめたとき
- 水が茶色くなってきたとき
- ダムのサイレンが聞こえたとき

など

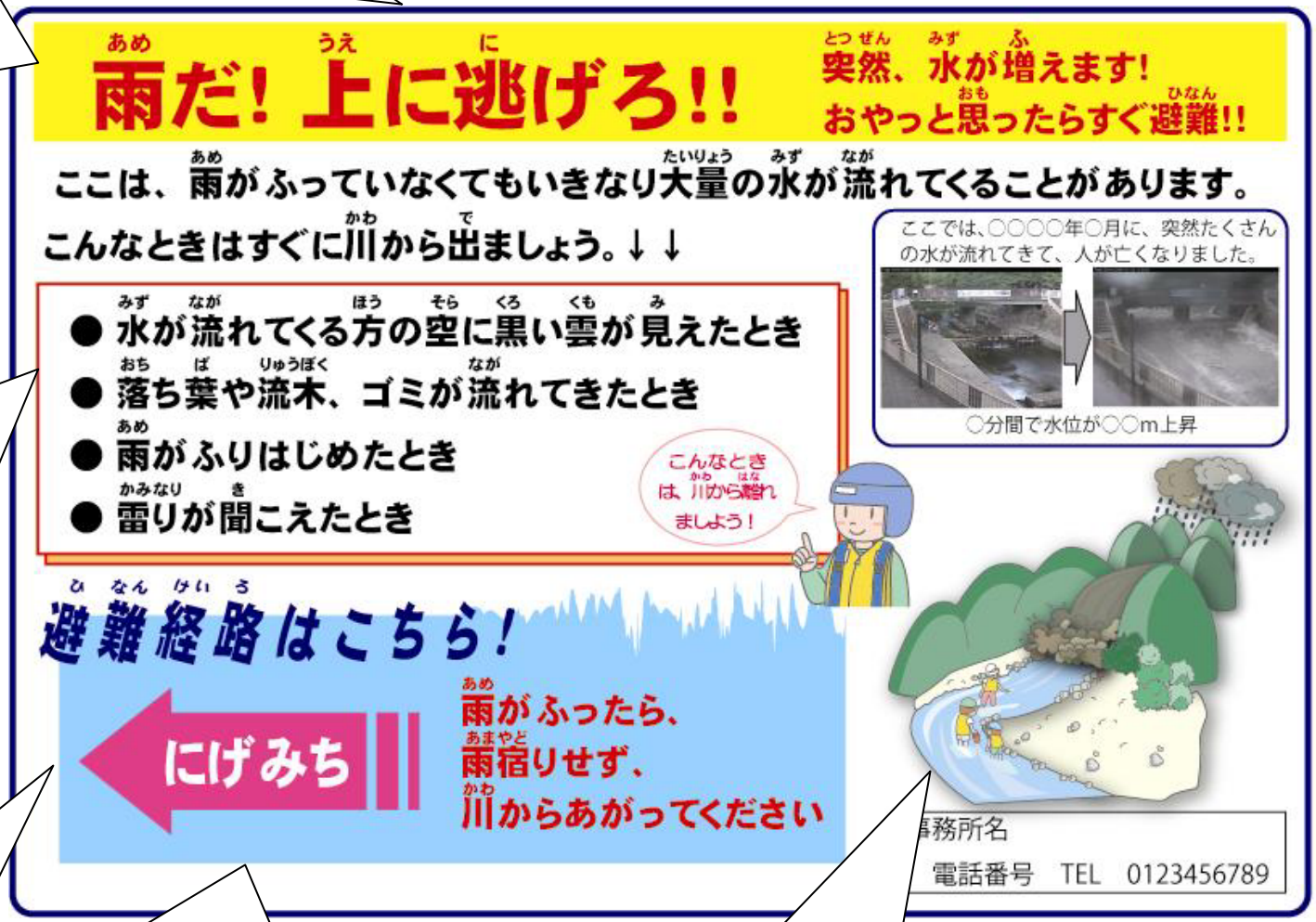
【その他の特筆事項例】

- 逃げ道の方向に矢印
- 急な増水のロゴ
- 過去の水害や観天望気などの民間伝承
- 声かけの例　　など

【子ども用看板の留意点①】

- 簡単な表現を用い、漢字にはふりがなをふる

【子ども用看板の例】



【子ども用看板の留意点②】

- 携帯電話を持っていない子どももいるので、URLの掲載を省き、逃げ道の方向を示す等、表現を工夫

【イラストの工夫】

- イラストは山間地、あるいは都市河川など現地の状況に合わせる

また、急な増水を象徴するサインを作成し、看板や親水空間に設置することで、河川利用者が「急な増水の危険がある河川」であることを認識できるようにする。なお、サインの作成にあたっては、広く一般からデザインを募集することを検討する。

■避難標識（サイン）の事例

＜新・避難場所シンボルマーク：消防庁（平成 13 年 6 月）＞

災害の多様化、地域社会の国際化の進展等を踏まえて、災害時における避難誘導を迅速かつ円滑に実施できるように、総務省消防庁の中に検討委員会を設置して、避難標識のあり方が検討された。

検討の結果、現在、「新・避難場所シンボルマーク」の国内の統一マークとして JIS（日本工業規格）に認証され、使用されている。（右図）

＜津波に関する統一標識：消防庁（平成 20 年 7 月）＞

地域住民はもとより、旅行者、観光客、外国人にも容易にわかりうる情報伝達を可能とし、標準図記号が示されることにより地方公共団体による標識の設置が促進されることを目的として、委員会を開催し、津波関係の避難標識の図案、設置条件等が検討された。

検討の結果、「津波に関する統一標識」が ISO により国際規格として制定された。

＜津波注意＞ 図記号の意味 地震が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を示す。 図記号の目的 当該地域が津波による被害を被る危険がある地域であることを認識させ、地震発生時には直ちに当該地域から内陸部、高台に避難させる。	**＜津波避難場所＞** 図記号の意味 津波に対して安全な避難場所・高台を示す。 図記号の目的 津波からの避難先となる安全な場所や高台を示すとともに、地震発生時には、そうした避難場所へ向かわせるもの。	**＜津波避難ビル＞** 図記号の意味 津波に対して安全な避難ビルを示す。 図記号の目的 津波からの避難に際し、近くに高台がない場合、津波からの避難が可能な鉄筋コンクリート造3階建のビルを示すとともに、地震発生時には、避難ビルへ向かわせるもの。

■看板に関する参考資料■　設置位置の参考事例

●看板の設置位置として、大きく６パターンを以下に示す。　※写真は次頁を参照のこと。
●これらを参考にしながら、効果的な設置位置を地域ごとに検討する。

①水際
・低水護岸付近に設置
・水辺の手前に車止めを設置し、その脇に掲示
・水辺の柵に設置

②降り口（階段、スロープ、車両用坂路）
・階段やスロープの降り口に設置
※川に入る前に注意を呼びかける
※植物が繁茂し、看板が隠れる場合があるので、植生管理もあわせて必要
※車両用坂路の途中に設置すると、気付かずに通り過ぎてしまう可能性もある

③橋、対岸の柵等
・橋脚や欄干、対岸の見通しの良い場所の柵などに横断幕などを設置
※水辺の利用者から視認しやすい

④高水敷･広場･堤防上等
・遠くからでも視認できるような位置に設置
※高水敷が広い河川では、水辺までの距離が遠いので設置場所や啓発の内容に工夫が必要

⑤水辺の遊歩道、堤防表法面
・水辺の遊歩道、堤防の表法面などを活用した看板の設置
※親水空間で遊ぶ人々に注意を呼びかける際には有効

⑥その他（既設看板等の活用）
・既設の河川標識、キロポストなどにシールを貼る、あるいはポールに追加で設置

① 水際

② 降り口（階段等）

③ 橋、対岸の柵等

④ 高水敷・広場・堤防上等

⑤ 水辺の遊歩道・堤防表法面

⑥ その他